



# Sun™ Integrated Lights Out Management 2.0 補足マニュアル Sun Netra T5220 サーバー

---

Sun Microsystems, Inc.  
[www.sun.com](http://www.sun.com)

Part No. 820-4479-10  
2008 年 1 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright © 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、Java、Netra、Sun Netra T5220 Server、Netra のロゴマーク、Solaris のロゴマークは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サン・のロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各種利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザー・インターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

予備の CPU の使用または交換は、米国の輸出法に従って輸出された製品に対する CPU の修理または 1 対 1 の交換に制限されています。米国政府の許可なしに、製品のアップグレードに CPU を使用することは、厳重に禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun Integrated Lights Out Management 2.0 Supplement for the Sun Netra T5220 Server  
Part No: 820-3011-10  
Revision A



Please  
Recycle



Adobe PostScript

# 目次

---

はじめに ix

1. Sun Netra T5220 サーバー用 ILOM 1
  - SPARC 固有の ILOM 機能 1
  - SPARC Enterprise サーバーでサポートされていない ILOM 機能 1
2. ホストの管理 3
  - リモートコントロールの管理 3
    - 起動モード 4
      - ▼ CLI を使用して、ホストの起動モードの構成を管理する 4
      - ▼ CLI を使用して、ホストの起動モードのスクリプトを管理する 5
      - ▼ CLI を使用して、ホストのリセット時の起動モードの動作を変更する 5
      - ▼ CLI を使用して、ホストの起動モードの有効期限を表示する 6
      - ▼ Web インタフェースを使用して、リモートコントロール構成設定を変更する 7
  - システム情報の表示と、エラー状況に関するシステムポリシーの設定 8
    - ▼ CLI を使用して、ホストの MAC アドレスを表示する 8
    - ▼ CLI を使用して、ホストの OpenBoot のバージョンを表示する 8
    - ▼ CLI を使用して、ホストの POST のバージョンを表示する 9
    - ▼ CLI を使用して、ウォッチドッグタイマーが期限切れになったときのホストの動作を決定する 9

- ▼ CLI を使用して、エラーの検出時に診断中のホストを停止するかどうかを指定する 9
- ▼ Web インタフェースを使用して、ホスト情報を表示する 10

#### 診断の管理 11

- ▼ CLI を使用して、診断のレベルを指定する 11
- ▼ CLI を使用して、診断モードを変更する 12
- ▼ CLI を使用して、診断トリガーの条件を指定する 12
- ▼ CLI を使用して、診断出力の冗長性の量を選択する 13
- ▼ Web インタフェースを使用して、診断設定を管理する 13

#### システムユーザーの対話の管理 15

- ▼ CLI を使用して、ブレイク信号に対するホスト応答モードを選択する 15
- ▼ CLI を使用して、ホストの状態情報を表示する 15

### 3. サービスプロセッサの管理 17

#### SP を使用した顧客情報の格納 17

- ▼ CLI を使用して、顧客の FRU データを変更する 17
- ▼ CLI を使用して、システム識別情報を変更する 18
- ▼ Web インタフェースを使用して、顧客の識別情報を変更する 18

#### 出荷時のデフォルトへのサービスプロセッサ設定の変更 19

- ▼ CLI を使用して、サービスプロセッサの設定を出荷時のデフォルト値にリセットする 19
- ▼ Web インタフェースを使用して、サービスプロセッサの設定を出荷時のデフォルトにリセットする 20

#### コンソールのエスケープ文字の変更 20

- ▼ CLI を使用して、コンソールのエスケープ文字を変更する 21

#### 構成ポリシーの設定の変更 21

- ▼ CLI を使用して、ユーザーデータベースのバックアップを使用不可または再度使用可能にする 22
- ▼ CLI を使用して、ホストサーバーの電源投入を使用不可または再度使用可能にする 22

- ▼ CLI を使用して、電源投入の遅延を使用不可または再度使用可能にする 23
- ▼ Web インタフェースを使用して、構成ポリシーの設定を管理する 24
- SSH サーバーの設定の管理 24
  - ▼ CLI を使用して、SSH 鍵のタイプを変更する 25
  - ▼ CLI を使用して、新しい SSH 鍵セットを生成する 25
  - ▼ CLI を使用して、SSH サーバーを再起動する 25
  - ▼ CLI を使用して、遠隔接続を指定または使用不可にする 25
  - ▼ Web インタフェースを使用して、SSH サーバーの設定を管理する 27
- 4. デバイスの管理 29
  - 仮想キースイッチの設定の管理 29
    - ▼ CLI を使用して、仮想キースイッチを制御する 29
    - ▼ Web インタフェースを使用して、仮想キースイッチを制御する 30
  - A. IPMI センサーのリファレンス 33
  - B. ALOM CMT 互換シェル 37
    - 下位互換の制限 37
      - ILOM ネットワーク構成プロパティの構成手順に対する確定手順の追加 37
    - ALOM CMT シェルの作成 38
      - ▼ ALOM CMT 互換シェルを作成する 39
    - ILOM コマンドと ALOM CMT コマンドの比較 40
    - ALOM CMT 変数の比較 47
- 索引 51



# 表目次

---

表 4-1	keyswitch_state の値	30
表 A-1	Sun Netra T5220 サーバーのセンサー	33
表 A-2	Sun Netra T5220 サーバーのインジケータ	35
表 B-1	ALOM CMT の commit 変数と対応する ILOM プロパティ	38
表 B-2	機能別 ALOM CMT シェルコマンド	41
表 B-3	ALOM CMT 変数と対応する ILOM プロパティ	47



# はじめに

---

『Sun Integrated Lights Out Management 2.0 補足マニュアル Sun Netra T5220 サーバー』では、Integrated Lights Out Manager (ILOM) のサービスプロセッサ (SP) に関する情報について説明します。SP を使用すると、サーバーを遠隔で管理できます。このマニュアルは、UNIX® コマンドについての知識と経験が豊富なシステム管理者を対象としています。

---

## マニュアルの構成

第 1 章では、Integrated Lights Out Manager (ILOM) の概要について説明します。

第 2 章では、ホストの SPARC® 固有の機能の管理について説明します。

第 3 章では、SP の SPARC 固有の機能の管理について説明します。

第 4 章では、システムデバイスの SPARC 固有の機能の管理について説明します。

付録 A では、IPMI センサーデータ (/SYS 名前空間) を示します。

付録 B では、ILOM のコマンドおよびプロパティに対応する ALOM CMT について説明します。

---

## UNIX コマンド

このマニュアルには、システムの停止、システムの起動、およびデバイスの構成などに使用する基本的な UNIX コマンドと操作手順に関する説明は含まれていない可能性があります。これらについては、以下を参照してください。

- 使用しているシステムに付属のソフトウェアマニュアル
- 下記にある Solaris™ OS のマニュアル

<http://docs.sun.com>

---

## シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	<i>machine-name%</i>
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	\$
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	#
ILOM サービスプロセッサ	->
OpenBoot PROM ファームウェア	ok

---

## 書体と記号について

書体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
<b>AaBbCc123</b>	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	マシン名% <b>su</b> Password:
<i>AaBbCc123</i>	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「 」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	% <b>grep</b> <b>``#define</b> \ <b>XV_VERSION_STRING</b> '

---

**注** – ブラウザの設定に応じて、文字の表示が異なります。文字が正しく表示されない場合、ブラウザの文字エンコーディングを Unicode UTF-8 に変更してください。

---

---

## 関連マニュアル

次の表に、この製品のマニュアルを示します。オンラインのマニュアルは、次の Web サイトで入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/server.nebs>

用途	タイトル	Part No.	形式	場所
計画	『Sun Netra T5220 Server Site Planning Guide』	820-3008	PDF、HTML	オンライン
設置	『Sun Netra T5220 サーバー設置マニュアル』	820-4465	PDF、HTML	オンライン
管理	『Sun Netra T5220 サーバー管理マニュアル』	820-4472	PDF、HTML	オンライン
問題および更新情報	『Sun Netra T5220 Server Product Notes』	820-3014	PDF、HTML	オンライン
ILOM リファレンス	『Sun Integrated Lights Out Management 2.0 補足マニュアル Sun Netra T5220 サーバー』	820-4479	PDF、HTML	オンライン
保守	『Sun Netra T5220 サーバーサービスマニュアル』	820-4483	PDF、HTML	オンライン
コンプライアンス	『Sun Netra T5220 Server Safety and Compliance Guide』	816-7190	PDF	オンライン
概要	『Sun Netra T5220 Server Getting Started Guide』	820-3016	印刷物 PDF	出荷用キット および オンライン

---

# マニュアル、サポート、およびトレーニング

---

Sun のサービス	URL
マニュアル	<a href="http://docs.sun.com/">http://docs.sun.com/</a>
サポート	<a href="http://jp.sun.com/support/">http://jp.sun.com/support/</a>
トレーニング	<a href="http://jp.sun.com/training/">http://jp.sun.com/training/</a>

---

---

## Sun 以外の Web サイト

このマニュアルで紹介する Sun 以外の Web サイトが使用可能かどうかについては、Sun は責任を負いません。このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料についても、Sun は保証しておらず、法的責任を負いません。また、このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、商品、サービスの使用や、それらへの依存に関連して発生した実際の損害や損失、またはその申し立てについても、Sun は一切の責任を負いません。

---

## コメントをお寄せください

マニュアルの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://docs.sun.com/app/docs>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

『Sun Integrated Lights Out Management 2.0 補足マニュアル Sun Netra T5220 サーバー』、Part No. 820-4479-10



# 第1章

---

## Sun Netra T5220 サーバー用 ILOM

---

この章では、Sun Netra T5220 サーバー用の ILOM について説明します。

この章は、次の節で構成されています。

- 1 ページの「SPARC 固有の ILOM 機能」
- 1 ページの「SPARC Enterprise サーバーでサポートされていない ILOM 機能」

---

### SPARC 固有の ILOM 機能

ILOM は多くのプラットフォーム上で動作し、すべてのプラットフォームに共通する機能をサポートしています。ILOM 機能の中には、すべてのプラットフォームではなく一部のプラットフォームでのみ使用できるものがあります。このマニュアルでは、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』で説明されている一連の機能を補足する、Sun Netra T5220 サーバー用の機能について説明します。

---

### SPARC Enterprise サーバーでサポートされていない ILOM 機能

ほかのプラットフォームでサポートされている ILOM 機能の中で、次の機能はこのサーバーの ILOM ではサポートされていません。

- ILOM リモートコンソール
- シングルサインオンなどの、シャーシ監視モジュール (CMM) 機能

このマニュアルでは、このサーバーでサポートされている ILOM 機能について説明します。



## 第2章

---

# ホストの管理

---

この章では、ほかのプラットフォーム上の ILOM に共通する一連のプロパティを補足する、SPARC Enterprise T5120 および T5220 サーバー用の ILOM 機能について説明します。この章では、特に /HOST 名前空間のプロパティについて説明します。この章は、次の節で構成されています。

- [3 ページの「リモートコントロールの管理」](#)
  - [8 ページの「システム情報の表示と、エラー状況に関するシステムポリシーの設定」](#)
  - [11 ページの「診断の管理」](#)
  - [15 ページの「システムユーザーの対話の管理」](#)
- 

## リモートコントロールの管理

リモートコントロールのプロパティを使用すると、ILOM が起動を処理する方法を指定できます。

- [CLI を使用して、ホストの起動モードの構成を管理する](#)
- [CLI を使用して、ホストの起動モードのスクリプトを管理する](#)
- [CLI を使用して、ホストのリセット時の起動モードの動作を変更する](#)
- [CLI を使用して、ホストの起動モードの有効期限を表示する](#)
- [Web インタフェースを使用して、リモートコントロール構成設定を変更する](#)

## 起動モード

起動モード (bootmode) プロパティを使用すると、サーバーが起動時に使用するデフォルトの方法を上書きできます。この機能は、スクリプトまたは類似のタスクを使用して OpenBoot 変数を設定することで、適切ではない可能性がある特定の OpenBoot 設定または LDom 設定を上書きする場合に便利です。

たとえば、OpenBoot 設定が破損した場合に、bootmode state プロパティを reset\_nvram に設定して、サーバーを出荷時のデフォルトの OpenBoot 設定にリセットすることができます。

保守作業員から、問題の解決に bootmode script プロパティを使用するように指示される場合があります。完全なスクリプトには、主にデバッグ用に用意されている、マニュアルには記載されていない機能があります。

bootmode は、OpenBoot 設定または LDom 設定に関する問題を修正するために 1 回の起動でのみ使用されることを目的としているため、bootmode は 1 回の起動でのみ有効です。また、管理者が bootmode state プロパティを設定したまま忘れることを防止するため、bootmode state プロパティが設定されてから 10 分以内にホストがリセットされないと、bootmode state プロパティが期限切れになります。

## ▼ CLI を使用して、ホストの起動モードの構成を管理する

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /HOST/bootmode config=value
```

config プロパティには、Logical Domains ソフトウェアを使用して SP にダウンロードされた名前付き論理ドメイン構成などの *configname* 値を指定します。

たとえば、ldm-set1 という名前の論理ドメイン構成を作成した場合は、次のように指定します。

```
-> bootmode config=ldm-set1
```

起動モードの config を出荷時のデフォルト構成に戻すには、factory-default を指定します。

次に例を示します。

```
-> bootmode config=factory-default
```

## ▼ CLI を使用して、ホストの起動モードのスク립トを管理する

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /HOST/bootmode script=value
```

この場合、script は、ホストサーバーの OpenBoot PROM ファームウェアの起動方法を制御します。

現在の /HOST/bootmode 設定には影響を与えません。value には、最大 64 バイトの長さまで指定できます。/HOST/bootmode 設定を指定して、同じコマンド内でスク립トを設定できます。

次に例を示します。

```
-> set /HOST/bootmode state=reset_nvram script="setenv diag-switch? true"
```

サーバーをリセットしたあとに OpenBoot PROM がスク립トに格納されている値を読み取ると、ファームウェアは OpenBoot PROM 変数 diag-switch? をユーザーが要求した値 true に設定します。

---

**注 - 注:** /HOST/bootmode script="" を設定すると、ILOM は script の値を空に設定します。/HOST/bootmode config="" を設定すると、ILOM は config の値を空に設定します。

---

## ▼ CLI を使用して、ホストのリセット時の起動モードの動作を変更する

/HOST/bootmode state プロパティは、OpenBoot の非揮発性読み取り専用メモリー (NVRAM) 変数の現在の設定を維持したまま、サービスプロセッサファームウェアのリセットを準備します。/HOST/bootmode を state=reset\_nvram に設定すると、OpenBoot NVRAM 変数がデフォルト設定に変更されます。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /HOST/bootmode state=value
```

value は、次のいずれかの値です。

- normal - 次のリセット時に、現在の NVRAM 変数の設定を維持します。

- `reset_nvram` – 次のリセット時に、OpenBoot 変数をデフォルト設定に戻します。

---

注 – 次回サーバーをリセットしたあと、または 10 分後に、`state=reset_nvram` の値は `normal` に戻ります (『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』の「`expires` プロパティ」を参照)。 `config` プロパティおよび `script` プロパティが期限切れになることはなく、次にサーバーをリセットしたとき、または手動で文字列を `"` に設定したときにクリアされます。

---

## ▼ CLI を使用して、ホストの起動モードの有効期限を表示する

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> show /HOST/bootmode expires
```

この場合、`expires` は、現在の `bootmode state` が期限切れになる日付です。

## ▼ Web インタフェースを使用して、リモートコントロール構成設定を変更する

The screenshot shows the Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) web interface. At the top, it displays the user role as Administrator (root) and the SP Hostname as SUNSP00144F3F8CAF. The main title is "Sun™ Integrated Lights Out Manager" with the Sun logo and "Java™" branding. Below the title is a navigation menu with tabs for System Information, System Monitoring, Configuration, User Management, Remote Control, and Maintenance. Under the Configuration tab, there are sub-tabs for Remote Power Control, Diagnostics, Host Control, Boot Mode Settings, and Keyswitch. The "Boot Mode" section is active, showing a form to configure boot mode settings. The form includes a "State" dropdown menu set to "Normal", an "Expiration Date" field showing "Tue Jan 19 03:14:07 2038", a "Script" text input field containing "my script", and an "LDom Config" text input field containing "ldm-set1". A "Save" button is located at the bottom left of the form.

ILOM では、サーバーのファームウェア環境を構成するいくつかの方法を提供します。起動モードの構成には、次の 4 つの要素があります。

- 状態
  - 有効期限
  - スクリプト
  - LDom 構成
1. ILOM Web インタフェースに管理者 (root) としてログインし、Web インタフェースを表示します。
  2. 「Remote Control (リモートコントロール)」->「Boot Mode Settings」を選択します。
  3. 「Boot Mode」の「State」を選択します。
  4. 「Expiration Date」が表示されます。
  5. 起動スクリプトを指定します。
  6. LDom 構成ファイルを指定します。
  7. 「Save (保存)」をクリックします。

---

# システム情報の表示と、エラー状況に関するシステムポリシーの設定

システム構成およびファームウェアのバージョン情報を表示するには、システム情報プロパティを使用します。

- CLI を使用して、ホストの MAC アドレスを表示する
- CLI を使用して、ホストの OpenBoot のバージョンを表示する
- CLI を使用して、ホストの POST のバージョンを表示する
- CLI を使用して、ウォッチドッグタイマーが期限切れになったときのホストの動作を決定する
- CLI を使用して、エラーの検出時に診断中のホストを停止するかどうかを指定する
- Web インタフェースを使用して、ホスト情報を表示する

## ▼ CLI を使用して、ホストの MAC アドレスを表示する

/HOST macaddress プロパティは、システムソフトウェアによって自動的に構成されるため、設定または変更はできません。値はサーバーの MAC アドレスから読み取られて識別され、ILOM にプロパティとして格納されます。

/HOST macaddress は、net0 ポートの MAC アドレスです。各追加ポートの MAC アドレスは、/HOST macaddress から増分されます。たとえば、net1 は /HOST macaddress に 1 を追加した値と同じです。

- このプロパティの現在の設定を表示するには、次のコマンドを入力します。

```
-> show /HOST macaddress
```

## ▼ CLI を使用して、ホストの OpenBoot のバージョンを表示する

/HOST obp\_version プロパティを使用すると、ホストの OpenBoot のバージョンに関する情報が表示されます。

- このプロパティの現在の設定を表示するには、次のコマンドを入力します。

```
-> show /HOST obp_version
```

## ▼ CLI を使用して、ホストの POST のバージョンを表示する

/HOST post\_version プロパティを使用すると、ホストの POST のバージョンに関する情報が表示されます。

- このプロパティの現在の設定を表示するには、次のコマンドを入力します。

```
-> show /HOST post_version
```

## ▼ CLI を使用して、ウォッチドッグタイマーが期限切れになったときのホストの動作を決定する

/HOST autorestart プロパティを使用すると、ILOM が Solaris ウォッチドッグタイマーの期限切れをどのように処理するかを指定できます。

- このプロパティを設定するには、次のコマンドを入力します。

```
-> set /HOST autorestart=value
```

値は、none、reset、または dumpcore に設定できます。デフォルト値は reset です。

---

注 – デフォルトのオプション (reset) は、Solaris ウォッチドッグタイマーをサポートしています。

---

## ▼ CLI を使用して、エラーの検出時に診断中のホストを停止するかどうかを指定する

/HOST autorunonerror プロパティを使用すると、システム診断によるエラーの検出後、ホストが起動を続行するかどうかを指定できます。

- このプロパティを設定するには、次のコマンドを入力します。

```
-> set /HOST autorunonerror=value
```

この場合、*value* は true または false に設定できます。デフォルト値は、false です。

## ▼ Web インタフェースを使用して、ホスト情報を表示する

この手順では、さまざまな種類のホスト情報を表示および構成する方法について説明します。

The screenshot shows the Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) web interface. At the top, there is a navigation bar with 'ABOUT', 'REFRESH', and 'LOG OUT' buttons. Below this, the user role is 'Administrator (root)' and the SP Hostname is 'SUNSP00144F3F8CAF'. The main title is 'Sun™ Integrated Lights Out Manager' with the Java logo and 'Sun™ Microsystems, Inc.' below it. A menu bar contains 'System Information', 'System Monitoring', 'Configuration', 'User Management', 'Remote Control', and 'Maintenance'. Under 'Configuration', there are sub-menus: 'Remote Power Control', 'Diagnostics', 'Host Control', 'Boot Mode Settings', and 'Keyswitch'. The 'Host Control' sub-menu is selected, and the page title is 'Host Control'. The main content area contains the following information:

View and configure the host control information. Auto Run on Error determines whether the host should continue to boot in the event of a non-fatal POST error. Auto Restart Policy determines what action the Service Processor should take when it discovers the host is hung.

**MAC Address:** 00:14:4f:3f:8c:a6  
**OBP Version:** OBP \*\*\*n2 build\_100 PROTOTYPE BUILD\*\*\* 2007/05/16 18:19 [stacie obp #0]  
**POST Version:** Sun Fire[™] Huron POST 4.x.0.n2.build\_100 2007/05/16 19:23  
**Post Status:** OS Running  
**Auto Run On Error:** False (dropdown menu)  
**Auto Restart Policy:** Reset (dropdown menu)

A 'Save' button is located at the bottom left of the configuration area.

ILOM では、いくつかの方法でホスト制御機能を表示または構成することができます。ホスト制御には、次の 6 つの要素があります。

- MAC アドレス
- OpenBoot のバージョン
- POST のバージョン

- POST の状態
  - エラー時の自動実行
  - 自動再起動ポリシー
1. ILOM Web インタフェースに管理者 (root) としてログインし、Web インタフェースを表示します。
  2. 「Remote Control (リモートコントロール)」 -> 「Host Control」 を選択します。
  3. MAC アドレスが表示されます。
  4. OpenBoot のバージョンが表示されます。
  5. POST のバージョンが表示されます。
  6. 「Auto Run On Error」 の値を選択します。
  7. 「Auto Restart Policy」 の値を選択します。
  8. 「Save (保存)」 をクリックします。

---

## 診断の管理

診断制御プロパティを使用すると、ホストサーバー上でエラーが発生した場合の ILOM の動作方法を指定できます。

ILOM は、次の診断システムインタフェースプロパティを使用します。

- CLI を使用して、診断のレベルを指定する
- CLI を使用して、診断モードを変更する
- CLI を使用して、診断トリガーの条件を指定する
- CLI を使用して、診断出力の冗長性の量を選択する
- Web インタフェースを使用して、診断設定を管理する

### ▼ CLI を使用して、診断のレベルを指定する

/HOST/diag level プロパティを使用すると、診断が使用可能な場合に実行される診断テストのレベルを指定できます。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /HOST/diag level=value
```

*value* は、次のいずれかの値です。

- min – 最小レベルの診断を実行してシステムを検証します (デフォルト値)。
- max – 最大設定の診断を実行してシステムの健全性を完全に検証します。

## ▼ CLI を使用して、診断モードを変更する

`/HOST/diag mode` プロパティを使用すると、診断を使用可能にするかどうかを制御し、使用可能にする診断モードを指定できます。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /HOST/diag mode=value
```

*value* は、次のいずれかの値です。

- off – 診断を実行しません。
- normal – 診断を実行します (デフォルト値)。
- service – 保守技術者による診断を実行します。これは、`/HOST/diag trigger=all-resets`、`/HOST/diag verbosity`、および `/HOST/diag level=max` の事前設定値を使用する場合と同等の機能です。`/HOST/diag mode=service` を設定すると、`set /SYS keyswitch_state=diag` コマンドを実行した場合と同じ処理が行われます。

## ▼ CLI を使用して、診断トリガーの条件を指定する

`/HOST/diag trigger` プロパティを使用すると、診断が使用可能な場合に POST が実行される条件を制御できます。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /HOST/diag trigger=value
```

*value* には、次のいずれかの値、またはその組み合わせを引用符で囲んで指定します。

- user-reset – システムのリセット時に診断を実行します。
- error-reset – システムをリセットして回復する必要がある致命的エラーが発生した場合に診断を実行します。
- power-on-reset – システムの電源投入時に診断を実行します。
- all-resets – `user-reset`、`error-reset`、および `power-on-reset` で指定されている診断をすべて実行します (デフォルト値)。

- none — 診断をスキップします。

デフォルト値は、power-on-reset と error-reset の組み合わせです。

次に例を示します。

```
-> set /HOST/diag trigger=" user-reset power-on-reset"  
-> show /HOST/diag trigger  
user-reset power-on-reset
```

## ▼ CLI を使用して、診断出力の冗長性の量を選択する

診断が使用可能な場合は、/HOST/diag verbosity プロパティを使用すると、POST 診断からの出力の冗長性レベルを指定できます。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /HOST/diag verbosity=value
```

*value* は、次のいずれかの値です。

- none — 障害が検出されないかぎり、診断の実行時にシステムコンソールには出力が表示されません。
- min — 診断で、制限された量の出力がシステムコンソールに表示されます。
- max — 診断で、実行されている各テストの名前と結果を含む完全な出力がシステムコンソールに表示されます。
- normal — 診断で、適度な量の出力がシステムコンソールに表示されます (デフォルト値)。
- debug — 診断で、テストされているデバイスと各テストのデバッグ出力を含む広範囲なデバッグの出力がシステムコンソールに表示されます。

## ▼ Web インタフェースを使用して、診断設定を管理する

この手順では、診断設定を表示および構成する方法について説明します。

ABOUT REFRESH LOG OUT

Role (User): Administrator (root) SP Hostname : SUNSP00144F3F8CAF

# Sun™ Integrated Lights Out Manager

Sun Microsystems, Inc. Java

System Information System Monitoring Configuration User Management Remote Control Maintenance

Remote Power Control Diagnostics Host Control Boot Mode Settings Keyswitch

## Diagnostics

Select the level of embedded diagnostics to run on the host during start up. The Trigger contains all possible states to cause diagnostics to be run. The Verbosity level will define how much information will be given. The Update Mode contains all the possible OPS modes specified to POST.

Trigger: All Resets

Verbosity: Normal

Level: Max

Current Mode: off

Update Mode: Off

Save

ILOM では、診断を表示または構成するいくつかの方法を提供します。ホスト制御には、次の 4 つの要素があります。

- トリガー
- 冗長性
- レベル
- モード

1. ILOM Web インタフェースに管理者 (root) としてログインし、Web インタフェースを表示します。
2. 「Remote Control (リモートコントロール)」 -> 「Diagnostics」を選択します。
3. 「Trigger」の値を選択します。
4. 「Verbosity」の値を選択します。
5. 「Level」の値を選択します。
6. 「Current Mode」が表示されます。
7. 「Update Mode」の値を選択します。

---

## システムユーザーの対話の管理

システムユーザープロパティを使用すると、ILOM によるホストサーバーの識別方法およびホストサーバーとの対話方法をカスタマイズできます。

- CLI を使用して、ブレイク信号に対するホスト応答モードを選択する
- CLI を使用して、ホストの状態情報を表示する

### ▼ CLI を使用して、ブレイク信号に対するホスト応答モードを選択する

`set /HOST send_break_action` コマンドを使用すると、OpenBoot PROM プロンプト (ok) に進むことを選択できるメニューがサーバーで表示されます。kmdb デバッガを設定している場合は、`break` コマンドを使用すると、サーバーはデバッグモードになります。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /HOST send_break_action=value
```

*value* は、次のいずれかの値です。

- `break` - ホストに切断を送信します。
- `dumpcore` - 管理対象のシステム OS のパニックコアダンプを強制的に行います (すべてのバージョンの OS でサポートされているとはかぎらない)。

### ▼ CLI を使用して、ホストの状態情報を表示する

`show /HOST status` コマンドを使用すると、ホストサーバーのプラットフォーム ID および状態に関する情報を表示できます。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> show /HOST status
```

コマンドによって、次のような情報が返されます。

```
-> show /HOST status  
  Properties:  
    status = OS Running  
  
  Commands:  
    show ->
```

## 第3章

# サービスプロセッサの管理

---

この章では、ほかのプラットフォーム上の ILOM に共通する一連のプロパティを補足する、SPARC Enterprise T5120 および T5220 サーバー用の ILOM プロパティについて説明します。この章では、特に /SP 名前空間のプロパティについて説明します。この章は、次の節で構成されています。

- 17 ページの「SP を使用した顧客情報の格納」
- 19 ページの「出荷時のデフォルトへのサービスプロセッサ設定の変更」
- 20 ページの「コンソールのエスケープ文字の変更」
- 21 ページの「この節では、ILOM を使用する構成システムポリシーの管理について説明します。」
- 24 ページの「SSH サーバーの設定の管理」

---

## SP を使用した顧客情報の格納

この節では、インベントリ制御または設置場所の資源管理などを目的として、SP および FRU PROM に情報を格納できる ILOM 機能について説明します。

- CLI を使用して、顧客の FRU データを変更する
- CLI を使用して、システム識別情報を変更する
- Web インタフェースを使用して、顧客の識別情報を変更する

### ▼ CLI を使用して、顧客の FRU データを変更する

/SP customer\_fru`data` プロパティを使用すると、すべての FRU PROM に情報を格納できます。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /SP customer_frudata=data
```

## ▼ CLI を使用して、システム識別情報を変更する

/SP system\_identifier プロパティを使用すると、顧客の識別情報を格納できます。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /SP system_identifier=data
```

## ▼ Web インタフェースを使用して、顧客の識別情報を変更する

ABOUT REFRESH LOG OUT

Role (User): Administrator (root) SP Hostname : SUNSP00144F3F8CAF

Sun™ Integrated Lights Out Manager

Sun™ Microsystems, Inc.

System Information System Monitoring Configuration User Management Remote Control Maintenance

Versions Session Time-Out Components Fault Management Identification Information

### Identification Information

Configure identification information.

Customer FRU Data:

SP Hostname:

SP System Identifier:

Save

ILOM は、FRU および SP に情報を格納できる機能を備えています。

1. ILOM Web インタフェースに管理者 (root) としてログインし、Web インタフェースを表示します。

2. 「System Information (システム情報)」 --> 「Identification Information」 を選択します。
3. 「Customer FRU Data」 フィールドを編集します。
4. 「SP Hostname」 が表示されます。
5. 「SP System Identifier」 フィールドを編集します。
6. 「Save (保存)」 をクリックします。

---

## 出荷時のデフォルトへのサービスプロセッサ設定の変更

この節では、サービスプロセッサの設定を出荷時のデフォルトに戻す方法について説明します。

- [CLI](#) を使用して、サービスプロセッサの設定を出荷時のデフォルト値にリセットする
- [Web インタフェース](#) を使用して、サービスプロセッサの設定を出荷時のデフォルト値にリセットする

### ▼ CLI を使用して、サービスプロセッサの設定を出荷時のデフォルト値にリセットする

`reset_to_defaults` プロパティを使用すると、すべての ILOM 構成プロパティを出荷時のデフォルト値に戻すことができます。all オプションを指定すると、ILOM 構成とすべてのユーザー情報が出荷時のデフォルト値に戻されます。

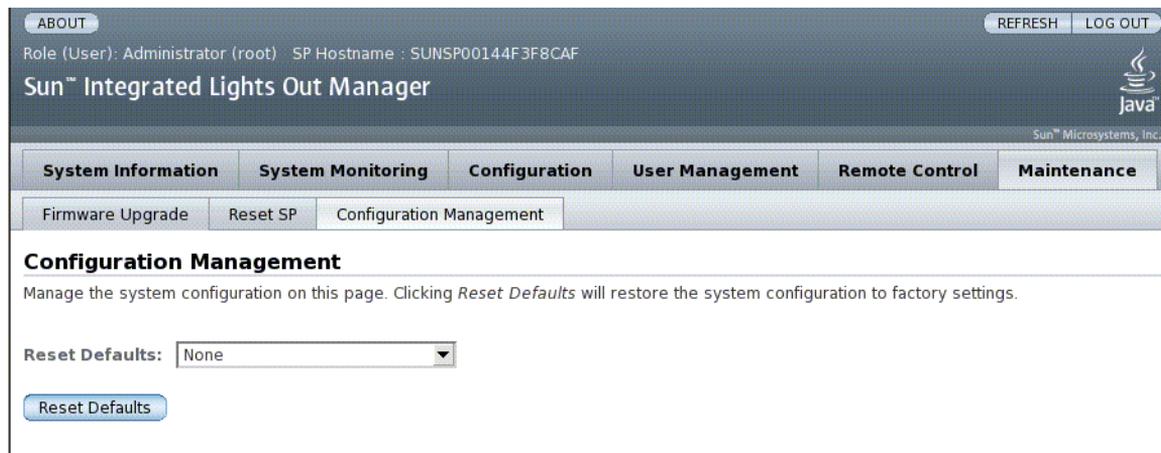
1. -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /SP reset_to_defaults=all
```

`reset_to_defaults` は、次のいずれかに設定できます。

- none - 変更を行いません。
  - configuration - ユーザーデータベースを保持します。
  - all - ユーザーデータベースをリセット (クリア) します。
2. 新しいプロパティ値が有効になるように、サービスプロセッサをリセットします。

## ▼ Web インタフェースを使用して、サービスプロセッサの設定を出荷時のデフォルトにリセットする



1. ILOM Web インタフェースに管理者 (root) としてログインし、Web インタフェースを表示します。
2. 「Maintenance (保守)」 --> 「Configuration Management」を選択します。
3. 「Reset Defaults」の値を選択します。
4. 「Save (保存)」をクリックします。

## コンソールのエスケープ文字の変更

この節では、エスケープ文字として使用する新しい文字の組み合わせの作成について説明します。

- [CLI を使用して、コンソールのエスケープ文字を変更する](#)

## ▼ CLI を使用して、コンソールのエスケープ文字を変更する

/SP/console escapechars プロパティを使用すると、システムコンソールセッションから ILOM に切り替えるエスケープ文字シーケンスを変更することができます。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /SP/console escapechars=x.
```

シーケンスは、2 文字に制限されています。2 番目の文字には、必ず . (ピリオド) を使用します。デフォルトの値は、#. (ハッシュとピリオド) です。シーケンスはカスタマイズできます。

x は、任意のプリント可能な文字です。

---

注 – エスケープ文字の変更は、現在アクティブなコンソールセッションでは有効になりません。

---

## 構成ポリシーの設定の変更

この節では、ILOM を使用する構成システムポリシーの管理について説明します。

- CLI を使用して、ユーザーデータベースのバックアップを使用不可または再度使用可能にする
- CLI を使用して、ホストサーバーの電源投入を使用不可または再度使用可能にする
- CLI を使用して、電源投入の遅延を使用不可または再度使用可能にする
- Web インタフェースを使用して、構成ポリシーの設定を管理する

## ▼ CLI を使用して、ユーザーデータベースのバックアップを使用不可または再度使用可能にする

/SP/policy BACKUP\_USER\_DATA プロパティを使用すると、ILOM 上のローカルユーザーデータベース (ユーザー、パスワード、およびアクセス権情報など) をバックアップするかどうかを指定できます。このプロパティが enable に設定されている場合は、このデータはシステムの取り外し可能なシステム構成カード (SCC PROM) にバックアップされます。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /SP/policy BACKUP_USER_DATA=value
```

value は、次のいずれかに設定できます。

- enabled - ユーザーデータベースを SCC にバックアップします。これがデフォルト値です。
- disabled - バックアップしません。

たとえば、ILOM 上のローカルユーザーデータベースをバックアップするには、次のコマンドを入力します。

```
-> set /SP/policy BACKUP_USER_DATA=enabled
```

## ▼ CLI を使用して、ホストサーバーの電源投入を使用不可または再度使用可能にする

サーバーの電源が切れている場合でも、ホストサーバーに電力が供給されるとすぐに ILOM は動作します。まずホストサーバーに電力が供給されると、ILOM は実行を開始しますが、サーバーは電源を入れるまで起動しません。

/SP/policy HOST\_LAST\_POWER\_STATE プロパティを使用して、ホストサーバーを使用不可にしたり (ホストサーバーを停止状態にしておく)、ふたたび使用可能にする (サーバーを電源が切断されたときの状態に戻す) ことができます。このプロパティは、電源障害発生時、またはサーバーを別の場所に物理的に移動する場合に役立ちます。

たとえば、ホストサーバーの動作中に電源が遮断された場合、/SP/policy HOST\_LAST\_POWER\_STATE プロパティが disabled に設定されていると、ホストサーバーは電源の回復後も停止したままになります。/SP/policy HOST\_LAST\_POWER\_STATE プロパティが enabled に設定されていると、電源の回復時にホストサーバーは再起動します。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /SP/policy HOST_LAST_POWER_STATE=enabled
```

このプロパティの値は、次のいずれかに設定できます。

- enabled - 電源の回復時に、サーバーは電源切断前の状態に戻ります。
- disabled - 電源が入っても、サーバーは停止したままになります。

このプロパティを有効にするには、/SP/policy HOST\_POWER\_ON\_DELAY も同様に設定する必要があります。詳細は、[23 ページの「CLI を使用して、電源投入の遅延を使用不可または再度使用可能にする」](#)を参照してください。

## ▼ CLI を使用して、電源投入の遅延を使用不可または再度使用可能にする

/SP/policy HOST\_POWER\_ON\_DELAY プロパティを使用すると、電源が自動的に入る前にサーバーを短時間待機させることができます。遅延は、1 ～ 5 秒のランダムな間隔です。サーバーの電源投入を遅延させると、主電源に対する電流サージを最小限に抑えることができます。この電源投入の遅延は、電源異常後にラック内の複数のサーバーの電源を入れる場合に重要です。

このプロパティは、/SP/policy HOST\_LAST\_POWER\_STATE が enabled に設定されている場合にのみ有効です。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /SP/policy HOST_POWER_ON_DELAY=value
```

*value* には、enabled または disabled を指定できます。

## ▼ Web インタフェースを使用して、構成ポリシーの設定を管理する

ABOUT REFRESH LOG OUT

Role (User): Administrator (root) SP Hostname : SUNSP00144F3F8CAF

Sun™ Integrated Lights Out Manager

System Information System Monitoring Configuration User Management Remote Control Maintenance

System Management Access Alert Management Network Serial Port Clock Settings Syslog SMTP Client Policy

**Policy Configuration**

Configure system policies from this page. To modify a policy, select the radio button next to that policy, then choose Enable or Disable from the Action drop down list.

**Service Processor Policies**

— Actions —

Description	Status
<input type="radio"/> Auto power-on host on boot (enabling this policy disables Set host power to last power state policy)	Disabled
<input type="radio"/> Set host power to last power state on boot (enabling this policy disables Auto power-on host policy)	Disabled
<input type="radio"/> Set to delay host power on	Disabled
<input type="radio"/> Set to enable backing up of user account info to SCC card	Enabled

1. ILOM Web インタフェースに管理者 (root) としてログインし、Web インタフェースを表示します。
2. 「Configuration (設定)」 --> 「Policy」を選択します。
3. 変更するポリシーの「Policy」ラジオボタンをクリックします。
4. 「Actions」の値を選択して、選択した処理 (「Enabled (有効)」または「Disabled (無効)」) を適用します。

## SSH サーバーの設定の管理

- CLI を使用して、SSH 鍵のタイプを変更する
- CLI を使用して、新しい SSH 鍵セットを生成する
- CLI を使用して、SSH サーバーを再起動する
- CLI を使用して、遠隔接続を指定または使用不可にする
- Web インタフェースを使用して、SSH サーバーの設定を管理する

## ▼ CLI を使用して、SSH 鍵のタイプを変更する

set /SP/services/ssh generate\_new\_key\_type コマンドを使用すると、使用しているサーバーで生成された Secure Shell (SSH) ホスト鍵のタイプを変更できます。タイプの変更後、set /SP/services/ssh generate\_new\_key\_action コマンドを使用して、新しいタイプの新しい鍵セットを生成する必要があります。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /SP/services/ssh generate_new_key_type=value
```

*value* には、rsa または dsa を指定できます。

## ▼ CLI を使用して、新しい SSH 鍵セットを生成する

set /SP/services/ssh generate\_new\_key\_action コマンドを使用すると、新しい Secure Shell (SSH) ホスト鍵のセットを生成できます。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /SP/services/ssh generate_new_key_action=true
```

## ▼ CLI を使用して、SSH サーバーを再起動する

set /SP/services/ssh generate\_new\_key\_action コマンドを使用して新しいホスト鍵を生成したあとで、set /SP/services/ssh restart\_sshd\_action コマンドを使用して SSH サーバーを再起動できます。これによって、生成した鍵がメモリー内のサーバー専用のデータ構造にふたたび読み込まれます。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /SP/services/ssh restart_sshd_action=true
```

## ▼ CLI を使用して、遠隔接続を指定または使用不可にする

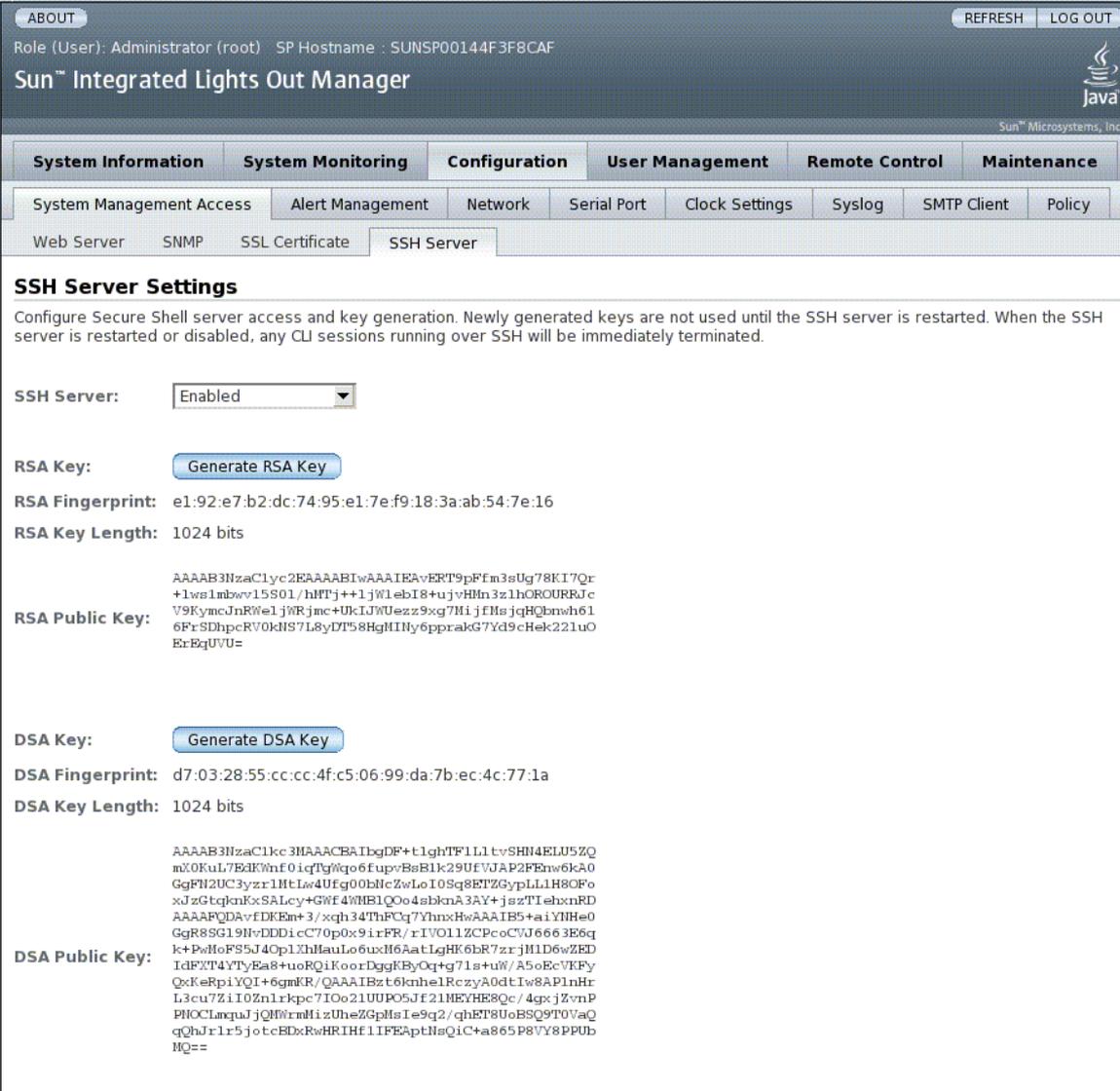
set コマンドで /SP/services/ssh state プロパティを使用すると、遠隔接続を指定または使用不可にできます。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /SP/services/ssh state=value
```

ここで、*value* は enabled または disabled です。

## ▼ Web インタフェースを使用して、SSH サーバーの設定を管理する



ABOUT REFRESH LOG OUT

Role (User): Administrator (root) SP Hostname : SUNSP00144F3F8CAF

### Sun™ Integrated Lights Out Manager

Sun Microsystems, Inc.

System Information System Monitoring Configuration User Management Remote Control Maintenance

System Management Access Alert Management Network Serial Port Clock Settings Syslog SMTP Client Policy

Web Server SNMP SSL Certificate SSH Server

#### SSH Server Settings

Configure Secure Shell server access and key generation. Newly generated keys are not used until the SSH server is restarted. When the SSH server is restarted or disabled, any CLI sessions running over SSH will be immediately terminated.

SSH Server: Enabled

RSA Key: [Generate RSA Key](#)

RSA Fingerprint: e1:92:e7:b2:dc:74:95:e1:7e:f9:18:3a:ab:54:7e:16

RSA Key Length: 1024 bits

RSA Public Key: AAAAB3NzaC1yc2EAAAABIwAAAIeAvERT9pFfm3sUg78Kl7Qr+1ws1mbwv15S01/hfTj++1jW1ebI8+ujvHMn3z1hOROURJcV9KymcJnRwE1jWRjnc+UcLJWUez9xg7Mi jfHs jqHQbnsh616FtSDhpcRV0kNS7L8yDT58HgHINIy6pprakG7Yd9cHek221u0ErEqUVU=

DSA Key: [Generate DSA Key](#)

DSA Fingerprint: d7:03:28:55:cc:cc:4f:c5:06:99:da:7b:ec:4c:77:1a

DSA Key Length: 1024 bits

DSA Public Key: AAAAB3NzaC1kc3MAAACBAIbgDF+t1ghTF1L1tvSHN4ELU5ZQmX0Kul7B3KwMf0iqTgWqo6fupvBsB1k29UfVJAP2FEnw6ka0GgFN2UC3yzzr1MtLw4Ufg00bncZwLoI0Sg8ETZGypLL1H8OPoxJzGtqcnKxSALcy+GWF4WMBLQOo4sbknA3AY+jszTIehcnRDAAAAPQDAvFDKEm+3/xqh34ThFCq7YhnxHwAAAIb5+aiYIHhE0GgR8SG19NvDDDicC70p0x9irFR/rIV011ZCPcoCVJ6663E6qk+PwMoFS5J4Op1ZhhauLo6uxH6AatLgHK6bR7zrjM1D6wZEDIdFXT4YTyEa8+uoRQiKoorDggKByOq+g7Ls+uW/A5oEcVKFyQxKerpiYQI+6gmKR/QAAAIbzt6knhe1RcZyA0dtLw8AP1nHrL3cu7ZiI0Znlrkpc7IOo21UUP05JF21MEVHE8Qc/4qpxZvmPPhOClanquJjQWmrmIiZUheZGpMsIe9q2/qhET8UoBSQ9T0VaQqQhJr1r5j0tcBDxRwHRiHE1IFEApTNaQiC+a865P8VY8PPUdMQ==

1. ILOM Web インタフェースに管理者 (root) としてログインし、Web インタフェースを表示します。
2. 「Configuration (設定)」 --> 「SSH Server Settings」を選択します。

3. 「SSH Server」プルダウンメニューから処理を選択します。
4. 「Generate RSA Key」または「Generate DSA Key」をクリックして、新しい鍵のタイプと新しい鍵を生成します。  
新しい鍵を生成した場合は、新しい鍵を有効にするために SSH サーバーを再起動する必要があります。

---

**注** – SSH サーバーを再起動または使用不可にすると、SSH 上で実行している CLI セッションは即時に終了します。

---

## 第4章

# デバイスの管理

---

この章では、ほかのプラットフォーム上の ILOM に共通する一連のプロパティを補足する、SPARC Enterprise T5120 および T5220 サーバー用の ILOM プロパティについて説明します。この章では、特に /SYS 名前空間のプロパティについて説明します。

- [仮想キースイッチの設定の管理](#)

---

## 仮想キースイッチの設定の管理

- [CLI を使用して、仮想キースイッチを制御する](#)
- [Web インタフェースを使用して、仮想キースイッチを制御する](#)

### ▼ CLI を使用して、仮想キースイッチを制御する

/SYS setkeyswitch\_state プロパティを使用すると、システムの仮想キースイッチの位置を制御できます。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /SYS keyswitch_state=value
```

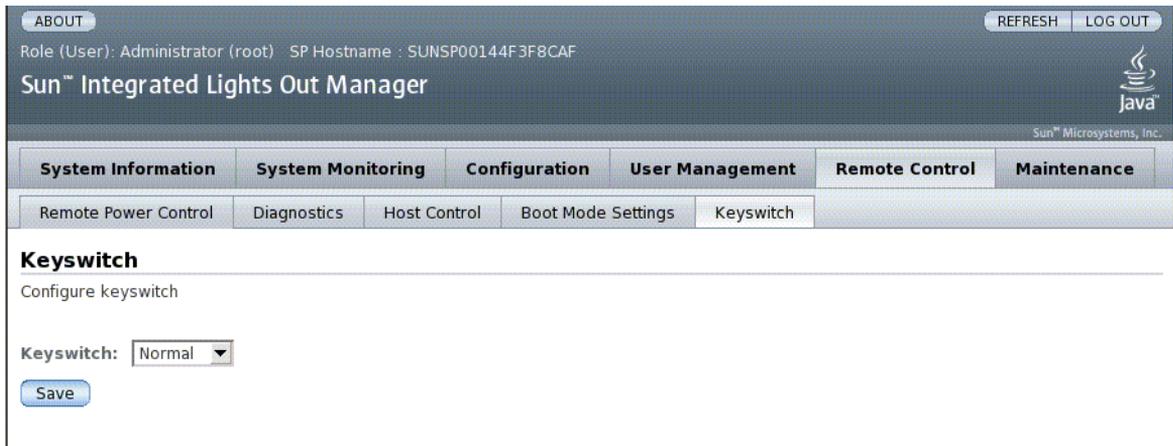
ここでは、setkeyswitch\_state プロパティは次のいずれかの値になります。

表 4-1 keyswitch\_state の値

オプション	説明
normal	システムは、システム自体の電源を入れて、起動処理を開始できません。
stby	システムは、システム自体の電源を入れることができません。
diag	システムは、診断プロパティの事前設定値 (/HOST/diag level=max、/HOST/diag mode=max、/HOST/diag verbosity=max) を使用して全体の障害カバレッジを表示し、システム自体の電源を入れることができます。このオプションは、設定した診断プロパティの値よりも優先されます。
locked	システムは、システム自体の電源を入れることができますが、フラッシュデバイスの更新、または /HOST send_break_action=break コマンドの使用は許可されません。

## ▼ Web インタフェースを使用して、仮想キースイッチを制御する

Web インタフェースを使用して、システムの仮想キースイッチの位置を制御できます。



The screenshot shows the Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) web interface. At the top, there is a navigation bar with 'ABOUT', 'REFRESH', and 'LOG OUT' buttons. Below this, the user role is identified as 'Administrator (root)' and the SP Hostname is 'SUNSP00144F3F8CAF'. The main title is 'Sun™ Integrated Lights Out Manager'. A navigation menu includes 'System Information', 'System Monitoring', 'Configuration', 'User Management', 'Remote Control', and 'Maintenance'. Under 'Configuration', there are sub-menus for 'Remote Power Control', 'Diagnostics', 'Host Control', 'Boot Mode Settings', and 'Keyswitch'. The 'Keyswitch' sub-menu is selected, and the page title is 'Keyswitch'. The main content area shows 'Configure keyswitch' with a 'Keyswitch:' label and a dropdown menu currently set to 'Normal'. A 'Save' button is located below the dropdown.

1. ILOM Web インタフェースに管理者 (root) としてログインし、Web インタフェースを表示します。

2. 「Remote Control (リモートコントロール)」 --> 「Keyswitch」 を選択します。
3. 「Keyswitch」 の状態の値を選択します。
4. 「Save (保存)」 をクリックします。



## 付録 A

# IPMI センサーのリファレンス

このサーバーには、電圧、温度範囲などの項目を測定する、IPMI に準拠した多数のセンサーとインジケータが装備されています。センサーには、コンポーネントの取り付けを検出するセキュリティラッチ、またはサービスが必要である可能性を通知するデバイスが含まれています。表 A-1 に、サーバーのセンサーを示します。表 A-2 に、サーバーのインジケータを示します。

表 A-1 Sun Netra T5220 サーバーのセンサー

名前	パス	説明
V_+3V3_STBY	/SYS/MB/V_+3V3_STBY	3.3V のスタンバイ電圧しきい値センサー
V_+3V3_MAIN	/SYS/MB/V_+3V3_MAIN	3.3V の主電圧しきい値センサー
V_+12V0_MAIN	/SYS/MB/V_+12V0_MAIN	12V の主電圧しきい値センサー
V_VBAT	/SYS/MB/V_VBAT	電圧しきい値センサー
V_VDDIO	/SYS/MB/V_VDDIO	電圧しきい値センサー
T_AMB	/SYS/MB/T_AMB	周囲温度しきい値センサー
I_USBn	/SYS/MB/I_USBn	USB ポート (0 ~ 1) の電流センサー
PSn/AC_POK	/SYS/PSn/AC_POK	電源装置 (0 ~ 1) の仕様範囲内電源センサー
V_VCORE	/SYS/MB/V_VCORE	CPU コア電圧しきい値センサー
V_VMEML	/SYS/MB/V_VMEML	左分岐電圧しきい値センサー
V_VMEMR	/SYS/MB/V_VMEMR	右分岐電圧しきい値センサー
VCORE_POK	/SYS/MB/VCORE_POK	仕様範囲内コア電源センサー

表 A-1 Sun Netra T5220 サーバーのセンサー (続き)

名前	パス	説明
VMEML_POK	/SYS/MB/VMEML_POK	左分岐仕様範囲内電源センサー
VMEMR_POK	/SYS/MB/VMEMR_POK	右分岐仕様範囲内電源センサー
BRn/CH0/D0/PRSNT	/SYS/MB/CMP0/BRn/CH0/D0/PRSNT	分岐 (0 ~ 3) の存在センサー
PSn/VOLT_FAULT	/SYS/PSn/VOLT_FAULT	電源装置 (0 ~ 1) の電圧障害センサー
PSn/TEMP_FAULT	/SYS/PSn/TEMP_FAULT	電源装置 (0 ~ 1) の温度障害センサー
PSn/CUR_FAULT	/SYS/PSn/CUR_FAULT	電源装置 (0 ~ 1) の電流障害センサー
PSn/DC_POK	/SYS/PSn/DC_POK	電源装置 (0 ~ 1) の DC 電源センサー
PSn/FAN_FAULT	/SYS/PSn/FAN_FAULT	電源装置 (0 ~ 1) のファン障害センサー
FANBDn/FMn/Fn/TACH	/SYS/FANBDn/FMn/Fn/TACH	ファンボード (0 ~ 1) ファンモジュール (0 ~ 1) ファン (0 ~ 1) の速度センサー
T_TCORE	/SYS/MB/CMP0/T_TCORE	コア上部温度センサー
T_BCORE	/SYS/MB/CMP0/T_BCORE	コア下部温度センサー
PSn/PRSNT	/SYS/PSn/PRSNT	電源装置 (0 ~ 1) の存在センサー
FANBDn/FMn/PRSNT	/SYS/FANBDn/FMn/PRSNT	ファンボード (0 ~ 1) ファンモジュール (0 ~ 2) の存在センサー
BRn/CH0/D0/T_AMB	/SYS/MB/CMP0/BRn/CH0/D0/T_AMB	分岐 (0 ~ 3) の温度センサー
HDDn/PRSNT	/SYS/HDDn/PRSNT	ハードディスク (0 ~ 7) の存在センサー

表 A-2 Sun Netra T5220 サーバーのインジケータ

名前	パス	説明
LOCATE	/SYS/LOCATE	位置特定インジケータ
ACT	/SYS/ACT	システム電源稼働インジケータ
SERVICE	/SYS/SERVICE	保守インジケータ
BRn/CH0/D0/SERVICE	/SYS/MB/CMP0/BRn/CH0/D0/SERVICE	分岐保守インジケータ
PS_FAULT	/SYS/PS_FAULT	電源装置障害インジケータ
TEMP_FAULT	/SYS/TEMP_FAULT	温度障害インジケータ
FAN_FAULT	/SYS/FAN_FAULT	ファン障害インジケータ
FANBDn/FMn/SERVICE	/SYS/FANBDn/FMn/SERVICE	ファンボード (0 ~ 1) ファンモジュール (0 ~ 2) の存在インジケータ
HDDn/SERVICE	/SYS/HDDn/SERVICE	ハードディスク (0 ~ 7) の保守インジケータ
HDDn/OK2RM	/SYS/HDDn/OK2RM	ハードディスク (0 ~ 7) の取り外し可能インジケータ



# ALOM CMT 互換シェル

---

ILOM では、互換シェルを使用して ALOM CMT コマンド行インタフェースの一部の機能をサポートしています。ILOM と ALOM CMT には大きな違いがあります。この付録では、それらの違いについて説明します。この付録は、次の節で構成されています。

- 37 ページの「下位互換の制限」
  - 38 ページの「ALOM CMT シェルの作成」
  - 40 ページの「ILOM コマンドと ALOM CMT コマンドの比較」
  - 47 ページの「ALOM CMT 変数の比較」
- 

## 下位互換の制限

下位互換性のシェルは ALOM CMT の一部の機能をサポートしますが、すべての機能をサポートするわけではありません。ILOM と ALOM CMT の重要な違いの一部についてここで説明します。また、使用しているサーバーのプロダクトノートにも記載されています。

## ILOM ネットワーク構成プロパティの構成手順に対する確定手順の追加

一部の ALOM CMT 変数 (ネットワーク構成変数、シリアルポート構成変数など) の値を変更すると、システムコントローラをリセットして変更を有効にする必要がありました。これに比べて、ILOM では、対応するプロパティの値を変更したあとでサービスプロセッサをリセットする必要はありません。ILOM の場合、プロパティの値を変更してから SP をリセットすると、新しいプロパティの設定が失われます。

代わりに、ネットワーク構成プロパティを変更してから、ALOM 互換 CLI で `setsc netsc_commit` を使用して確定するか、ILOM CLI を使用して `set /SP/network commitpending` を実行します。シリアルポート構成プロパティを変更するには、ALOM 互換 CLI の `setsc ser_commit` か、ILOM CLI の `set /SP/serial/external commitpending` を使用して、変更を確定します。

たとえば、ALOM 互換 CLI を使用して静的 IP アドレスを設定するには、次のように入力します。

```
sc> setsc netsc_ipaddr xxx.xxx.xxx.xxx
sc> setsc netsc_commit
```

ILOM CLI を使用して同じプロパティを設定するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/network pendingipaddress=xxx.xxx.xxx.xxx
Set ÅpendingipaddressÅf to Åfxxx.xxx.xxx.xxxÅf
-> set /SP/network commitpending=true
Set ÅfcommitpendingÅf to ÅftrueÅf
->
```

つまり、変更を有効にするには、その変更を確定する必要があります。

表 B-1 ALOM CMT の commit 変数と対応する ILOM プロパティ

ALOM CMT 変数	対応する ILOM プロパティ
<code>netsc_commit</code>	<code>/SP/network commitpending</code>
<code>ser_commit</code>	<code>/SP/serial/external commitpending</code>

## ALOM CMT シェルの作成

デフォルトでは、サーバーは ILOM シェルで操作するように設定されています。サーバーの管理に ALOM CMT コマンドと類似するコマンドを使用することが望ましい場合は、ALOM 互換シェルを作成できます。

## ▼ ALOM CMT 互換シェルを作成する

1. ユーザー名 `root` を使用してサービスプロセッサにログオンします。  
電源を入れると、SP が起動し、ILOM ログインプロンプトが表示されます。出荷時のデフォルトのパスワードは `changeme` です。

```
SUNSPxxxxxxxxxx login: root
Password:
Waiting for daemons to initialize...

Daemons ready

Sun(TM) Integrated Lights Out Manager

Version 2.0.0.0

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Use is subject to license terms.

Warning: password is set to factory default.
```

2. `admin` という名前のユーザーを作成し、`admin` アカウントの役割を `Administrator` に設定してから、CLI モードを `alom` に設定します。

```
-> create /SP/users/admin
Creating user...
Enter new password: *****
Enter new password again: *****
Created /SP/users/admin
-> set /SP/users/admin role=Administrator
Set 'role' to 'Administrator'
-> set /SP/users/admin cli_mode=alom
Set 'cli_mode' to 'alom'
```

---

**注** – この例のアスタリスクで示された部分は、実際にパスワードを入力する際には表示されません。

---

`create` および `set` コマンドを 1 行にまとめて、次のように指定することもできます。

```
-> create /SP/users/admin role=Administrator cli_mode=alom
Creating user...
Enter new password: *****
Enter new password again: *****
Created /SP/users/admin
```

3. admin アカウントの作成が完了したら、root アカウントをログアウトします。

```
-> exit
```

4. ILOM ログインプロンプトから ALOM CLI シェル (sc> プロンプトで示される) にログインします。 .

```
SUNSPxxxxxxxxxx login: admin
Password:
Waiting for daemons to initialize...

Daemons ready

Sun(TM) Integrated Lights Out Manager

Version 2.0.0.0

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Use is subject to license terms.

sc>
```

ALOM CMT 互換シェルを使用すると、ほぼ例外なく、ALOM CMT のコマンドに類似したコマンドを使用できるようになります。ALOM CMT 互換シェルは、ILOM インタフェースであることを覚えておいてください。ILOM CLI と ALOM CMT 互換 CLI の比較については、[40 ページの「ILOM コマンドと ALOM CMT コマンドの比較」](#)で説明します。

---

## ILOM コマンドと ALOM CMT コマンドの比較

次の表に、ALOM CMT のコマンドセットとデフォルトの ILOM CLI コマンドセットにおける、コマンドごとの比較を示します。表 B-2 には、サポートされている ALOM CMT コマンドオプションのみが記載されています。対応する ILOM プロパティが存在しない ALOM CMT コマンド行引数がある場合、それらの ALOM CMT 引数は省略されています。ALOM 互換シェルのコマンドセットでは、ALOM CMT でサポートされているコマンドおよび引数と非常によく似た同等のコマンドおよび引数が提供されています。

表 B-2 機能別 ALOM CMT シェルコマンド

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
<b>構成コマンド</b>		
password	現在のユーザーのログインパスワードを変更します。	set /SP/users/username password
restartssh	ssh-keygen コマンドによって生成された新しいホスト鍵が再ロードされるように、SSH サーバーを再起動します。	set /SP/services/ssh restart_sshd_action=true
setalarm critical major minor user on off	アラームおよび関連付けられた LED をオンまたはオフにします。	set /SYS/ALARM/MINOR value=on
setdate [[m <sup>mm</sup> dd]HHMM   m <sup>mm</sup> ddHHMM[cc]yy][.SS]	ALOM CMT の日付および時刻を設定します。	set /SP/clock datetime=value
setdefaults [-a]	すべての ALOM CMT 構成パラメータをデフォルト値にリセットします。-a オプションを指定すると、ユーザー情報が出荷時のデフォルト (1 つの admin アカウントのみ) にリセットされます。	set /SP reset_to_defaults=all
setkeyswitch [normal stby diag locked]	仮想キースイッチの状態を設定します。仮想キースイッチをスタンバイ (stby) に設定すると、サーバーの電源が切断されます。ホストサーバーの電源を切る前に、ALOM CMT によって電源切断の確認が求められます。	set /SYS keyswitch_state=value
setsc [param] [value]	指定した ALOM CMT パラメータに割り当てる値を設定します。	set target property=value
setupsc	対話型の構成スクリプトを実行します。このスクリプトでは、ALOM CMT 構成変数が設定されます。	ILOM での対応なし

表 B-2 機能別 ALOM CMT シェルコマンド (続き)

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
showplatform [-v]	ホストシステムのハードウェア構成に関する情報と、そのハードウェアがサービスを提供しているかどうかを表示します。-v オプションを指定すると、表示されているコンポーネントに関する詳細情報が表示されます。	show /HOST
showfru	ホストサーバー内の現場交換可能ユニット (FRU) に関する情報を表示します。	ILOM での対応なし
showusers [-g lines]	ALOM CMT に現在ログインしているユーザーのリストを表示します。このコマンドの表示書式は、UNIX コマンド who の表示書式と類似しています。-g オプションを指定すると、lines で指定した行数を表示するたびに一時停止します。	show /SP/sessions
showhost [version]	ホスト側のコンポーネントのバージョン情報を表示します。	show /HOST
showkeyswitch	仮想キースイッチの状態を表示します。	show /SYS keyswitch_state
showsc [param]	現在の非揮発性の読み取り専用メモリー (NVRAM) の構成パラメータを表示します。	show target property
showdate	ALOM CMT の日付を表示します。ALOM CMT の時刻は、現地時刻ではなく協定世界時 (UTC) で表現されます。Solaris OS と ALOM CMT の時刻は同期化されません。	show /SP/clock datetime
ssh-keygen -l -t (rsa dsa)	Secure Shell (SSH) ホスト鍵を生成し、ホスト鍵フィンガープリントを SC に表示します。	show /SP/services/ssh/keys/dsa show /SP/services/ssh/keys/rsa

表 B-2 機能別 ALOM CMT シェルコマンド (続き)

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
usershow [username]	すべてのユーザーアカウント、アクセス権レベル、およびパスワード割り当ての有無を示すリストを表示します。	show /SP/users
useradd username	ALOM CMT にユーザーアカウントを追加します。	create /SP/users/username
userdel username	ALOM CMT からユーザーアカウントを削除します。	delete /SP/users/username
userdel -y username	-y オプションを指定すると、確認メッセージは表示されません。	delete -script /SP/users/username
userpassword [username]	ユーザーのパスワードを設定または変更します。	set /SP/users/username password
userperm [username] [c] [u] [a] [r]	ユーザーアカウントのアクセス権レベルを設定します。	set /SP/users/username role=permissions (ここで、permissions は Administrator または Operator)
<b>ログコマンド</b>		
showlogs [-p logtype [p]]	ALOM CMT RAM イベントログに記録されたすべてのイベントの履歴、または持続ログに記録されたメジャーイベントおよびクリティカルイベントを表示します。-p オプションを指定すると、RAM イベントログ (logtype r) のエントリのみを表示するか、持続イベントログ (logtype p) のエントリのみを表示するかを選択できます。	show /SP/logs/event/list
consolehistory [-b lines   -e lines   -v] [-g lines] [boot   run]	ホストサーバーコンソールの出力バッファを表示します。	ILOM での対応なし

表 B-2 機能別 ALOM CMT シェルコマンド (続き)

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
状態コマンドおよび制御コマンド		
showenvironment	ホストサーバーの環境の状態を表示します。この情報には、システムの温度、電源装置の状態、フロントパネルの LED の状態、ハードディスクドライブの状態、ファンの状態、電圧と電流のセンサーの状態がありません。	show -o table -level all /SYS
shownetwork [-v]	現在のネットワーク構成情報を表示します。-v オプションを指定すると、DHCP サーバーについての情報も含めたネットワークに関する追加情報が表示されます。	show /SP/network
console [-f]	ホストシステムのコンソールに接続します。-f オプションを指定すると、コンソールの書き込みロックが強制的に別のユーザーに移動します。	start /SP/console
break [-c]	ホストサーバー上で動作している Solaris OS ソフトウェアを中断し、Solaris ソフトウェアが起動されたモードに応じて、OpenBoot PROM または kmdb に制御を移します。	set /HOST send_break_action=break
break [-D]	ホストサーバー上で動作している Solaris OS ソフトウェアを中断し、Solaris ソフトウェアが起動されたモードに応じて、OpenBoot PROM または kmdb に制御を移します。	set /HOST send_break_action=dumpcore
bootmode [normal] [reset_nvram] [config=configname] [bootscript=string]	ホストサーバーの OpenBoot PROM ファームウェアの起動方法を制御します。	set /HOST/bootmode <i>property=value</i> (ここで、 <i>property</i> は state、config、または script)

表 B-2 機能別 ALOM CMT シェルコマンド (続き)

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
flashupdate -s <i>IPaddr</i> -f <i>pathname</i> [-v]	ホストファームウェアおよび ALOM CMT ファームウェアの両方のシステムファームウェアをダウンロードおよび更新します。 ILOM では、 <i>ipaddr</i> は TFTP サーバーである必要があります。DHCP が使用されている場合、 <i>ipaddr</i> は TFTP ホストの名前に置き換えることができます。	load -source tftp:// <i>ipaddr/pathname</i>
reset [-c]	ホストサーバーのハードウェアリセットを生成します。	reset /SYS
reset [-y] [-c]	-y オプションを指定すると、確認メッセージは表示されません。	reset -script /SYS
powercycle [-y] [-f]	poweroff のあとに poweron を実行します。	stop /SYS start /SYS
powercycle -y	-f オプションを指定すると、ただちに強制的に poweroff が実行されます。	stop -script /SYS start -script /SYS
powercycle -f	指定しない場合は、正常な停止が試行されます。	stop -force /SYS start -force /SYS
poweroff	ホストサーバーの主電源を切ります。	stop /SYS
poweroff -y	-y オプションを指定すると、確認メッセージは表示されません。	stop -script /SYS
poweroff -f	ALOM CMT は、正常なサーバーの停止を試行します。-f オプションを指定すると、ただちに強制的に停止されます。	stop -force /SYS
poweron	ホストサーバーまたは FRU の主電源を入れます。	start /SYS
setlocator [on/off]	サーバーのロケータ LED の点灯と消灯を切り替えます。	set /SYS/LOCATE value= <i>value</i>
showfaults [-v]	現在検出されているシステム障害を表示します。	show /SP/faultmgmt

表 B-2 機能別 ALOM CMT シェルコマンド (続き)

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
<code>clearfault <i>UUID</i></code>	手動でシステム障害を修復します。	<code>set /SYS/component clear_fault_action=true</code>
<code>showlocator</code>	ロケータ LED の現在の状態が点灯または消灯のどちらであるかを表示します。	<code>show /SYS/LOCATE</code>
<b>FRU コマンド</b>		
<code>setfru -c <i>data</i></code>	-c オプションを使用すると、システムのすべての FRU にインベントリコードなどの情報を格納できます。	<code>set /SP customer_frudata=<i>data</i></code>
<code>showfru [-g lines] [-s -d] [FRU]</code>	ホストサーバー内の FRU に関する情報を表示します。	ILOM での対応なし
<code>removefru [-y] [FRU]</code>	電源装置などの FRU を取り外す準備をします。-y オプションを指定すると、確認メッセージは表示されません。	<code>set /SYS/PS0 prepare_to_remove_action=true</code>
<b>自動システム回復 (Automatic System Recovery、ASR) コマンド</b>		
<code>enablecomponent <i>asr-key</i></code>	asr-db ブラックリストからコンポーネントを削除します。	<code>set /SYS/component component_state=enabled</code>
<code>disablecomponent <i>asr-key</i></code>	asr-db ブラックリストにコンポーネントを追加します。	<code>set /SYS/component component_state=disabled</code>
<code>showcomponent <i>asr-key</i></code>	システムコンポーネントおよびそのテスト状態 (ASR 状態) を表示します。	<code>show /SYS/component component_state</code>
<code>clearasrdb</code>	asr-db ブラックリストからすべてのエントリを削除します。	ILOM での対応なし

表 B-2 機能別 ALOM CMT シェルコマンド (続き)

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
その他のコマンド		
help [ <i>command</i> ]	すべての ALOM CMT コマンドのリスト、およびその構文と機能の概要を表示します。オプションとしてコマンド名を指定すると、そのコマンドのヘルプを表示できます。	help
resetsc	ALOM CMT を再起動します。-y オプションを指定すると、確認メッセージは表示されません。	reset /SP
resetsc -y		reset -script /SP
userclimode	シェルのタイプを <i>shelltype</i> に設定します。ここで、 <i>shelltype</i> は default または alom です。	set /SP/users/username cli_mode= <i>shelltype</i>
logout	ALOM CMT シェルセッションからログアウトします。	exit

## ALOM CMT 変数の比較

次の表に、ALOM CMT 変数および ILOM プロパティを比較できるように示します。この比較は、1 対 1 のマッピングを示すものではありません。ILOM プロパティを理解するには、ILOM 自身のコンテキストでこれらの ILOM プロパティを参照することが必要です。

表 B-3 ALOM CMT 変数と対応する ILOM プロパティ

ALOM CMT 変数	対応する ILOM プロパティ
diag_level	/HOST/diag level
diag_mode	/HOST/diag mode
diag_trigger	/HOST/diag trigger
diag_verbosity	/HOST/diag verbosity
if_connection	/SP/services/ssh state
if_emailalerts	/SP/clients/smtpt state

表 B-3 ALOM CMT 変数と対応する ILOM プロパティ (続き)

ALOM CMT 変数	対応する ILOM プロパティ
if_network	/SP/network state
if_snmp	/SP/services/snmp
mgt_mailalert	/SP/alertmgmt/rules
mgt_mailhost	/SP/clients/smtp address
mgt_snmptraps	/SP/services/snmp v1 v2c v3
mgt_traphost	/SP/alertmgmt/rules /SP/services/snmp port
netsc_dhcp	/SP/network pendingipdiscovery
netsc_commit	/SP/network commitpending
netsc_enetaddr	/SP/network macaddress
netsc_ipaddr	/SP/network pendingipaddress
netsc_ipgateway	/SP/network pendingipgateway
netsc_ipnetmask	/SP/network pendingipnetmask
sc_backupuserdata	/SP/policy BACKUP_USER_DATA
sc_clieventlevel	なし
sc_cliprompt	なし
sc_clitimeout	なし
sc_clipasswdecho	なし
sc_customerinfo	/SP system_identifier
sc_escapechars	/SP/console escapechars
sc_powerondelay	/SP/policy HOST_POWER_ON_DELAY
sc_powerstatememory	/SP/policy HOST_LAST_POWER_STATE
ser_baudrate	/SP/serial/external pendingspeed
ser_data	なし
ser_parity	/SP/serial/external pendingparity
ser_stopbits	/SP/serial/external pendingstopbits
sys_autorestart	/SP autorestart
sys_autorunonerror	/SP autorunonerror
sys_eventlevel	なし
sys_enetaddr	/HOST macaddress





# 索引

---

## 記号

/HOST autorestart プロパティ, 9  
/HOST autorunonerror プロパティ, 9  
/HOST macaddress プロパティ, 8  
/HOST send\_break\_action プロパティ, 15  
/HOST status プロパティ, 15  
/HOST/bootmode config プロパティ, 4  
/HOST/bootmode expires プロパティ, 6  
/HOST/bootmode script プロパティ, 5  
/HOST/bootmode state プロパティ, 5  
/HOST/diag level プロパティ, 11  
/HOST/diag mode プロパティ, 12  
/HOST/diag trigger プロパティ, 12  
/HOST/diag verbosity プロパティ, 13  
/SP customer\_frudata プロパティ, 17  
/SP reset\_to\_defaults プロパティ, 19  
/SP system\_identifier プロパティ, 18  
/SP/console escapechars プロパティ, 21  
/SP/policy BACKUP\_USER\_DATA プロパティ, 22  
/SP/policy HOST\_LAST\_POWER\_STATE プロパティ, 22  
/SP/policy HOST\_POWER\_ON\_DELAY プロパティ, 23  
/SP/services/ssh  
generate\_new\_key\_action プロパティ, 25

/SP/services/ssh generate\_new\_key\_type  
プロパティ, 25  
/SP/services/ssh restart\_sshd\_action  
プロパティ, 25  
/SP/services/ssh state プロパティ, 25  
/SYS keyswitch\_state プロパティ, 29

## A

### ALOM

コマンド  
setalarm, 41

## I

### ILOM プロパティ

/HOST autorestart, 9  
/HOST autorunonerror, 9  
/HOST macaddress, 8  
/HOST send\_break\_action, 15  
/HOST status, 15  
/HOST/bootmode config, 4  
/HOST/bootmode expires, 6  
/HOST/bootmode script, 5  
/HOST/bootmode state, 5  
/HOST/diag level, 11  
/HOST/diag mode, 12  
/HOST/diag trigger, 12  
/HOST/diag verbosity, 13  
/SP customer\_frudata, 17  
/SP reset\_to\_defaults, 19  
/SP system\_identifier, 18  
/SP/console escapechars, 21  
/SP/policy BACKUP\_USER\_DATA, 22

- /SP/policy HOST\_LAST\_POWER\_STATE, 22
- /SP/policy HOST\_POWER\_ON\_DELAY, 23
- /SP/services/ssh
  - generate\_new\_key\_action, 25
- /SP/services/ssh
  - generate\_new\_key\_type, 25
- /SP/services/ssh
  - restart\_sshd\_action, 25
- /SP/services/ssh state, 25
- /SYS keyswitch\_state, 29

- システムユーザー, 15
- 電源状態の記憶, 22
- バックアップデータ, 22

## リ

- リモートコントロールの設定
  - CLI での変更, 3
  - Web インタフェースでの変更, 7

## S

- setalarm (ALOM コマンド), 41

## う

- ウォッチドッグタイマー, 9

## き

- 起動モード

- 概要, 4

- 構成の管理, 4

- スクリプトの管理, 5

- リセットの管理, 5

## さ

- サーバー

- プラットフォーム情報, 15

## し

- 出荷時のデフォルト, 19

## た

- タイマー、ウォッチドッグ, 9

## て

- デフォルト、リセット, 19

- 電源状態の記憶, 22

- 電源の状態, 22

## は

- バックアップ、ユーザーデータ, 22

## ふ

- プラットフォーム, 表示, 15

- プロパティ